

千住博の不易流行



美術史の部屋

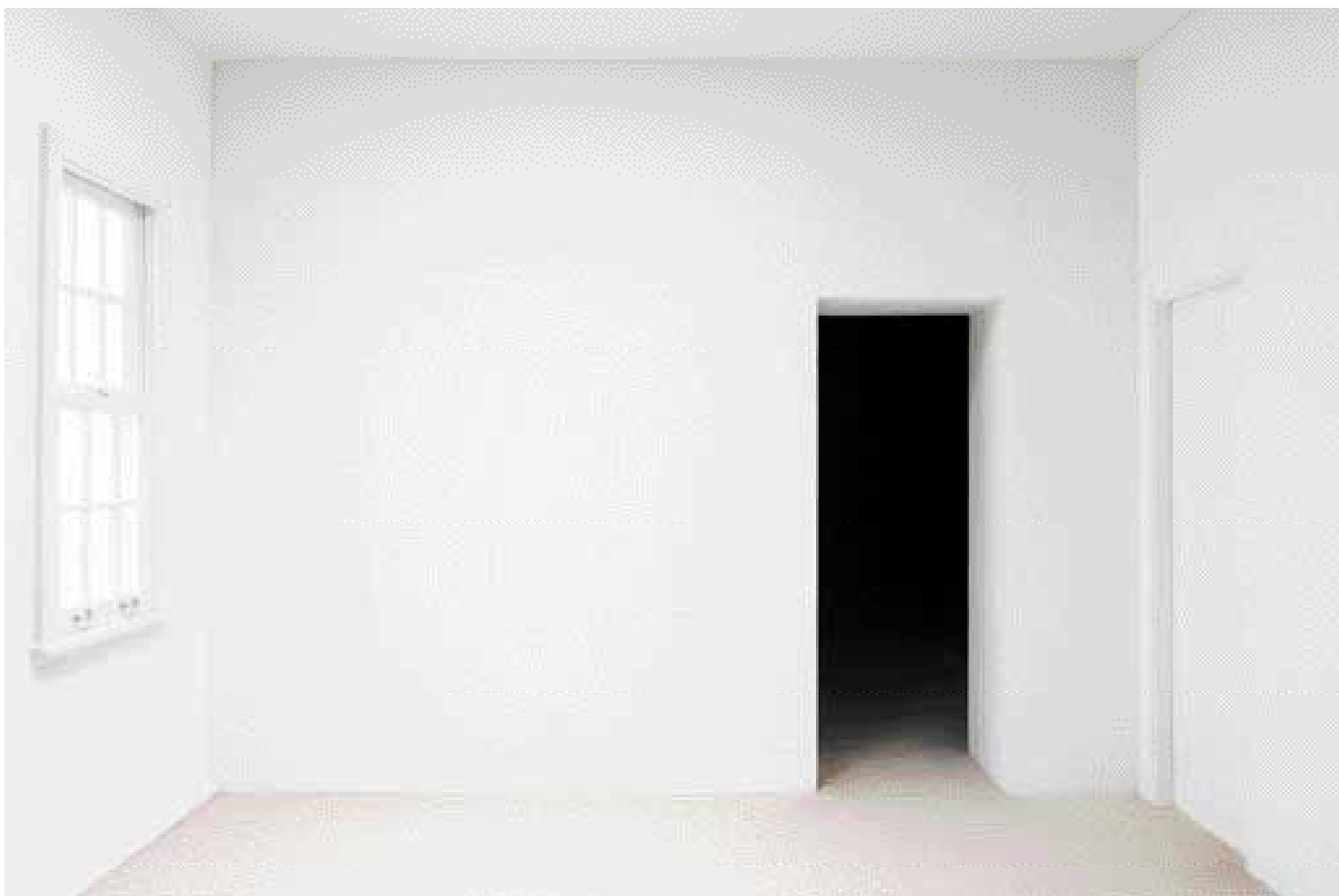
第二十六回

菅亮平

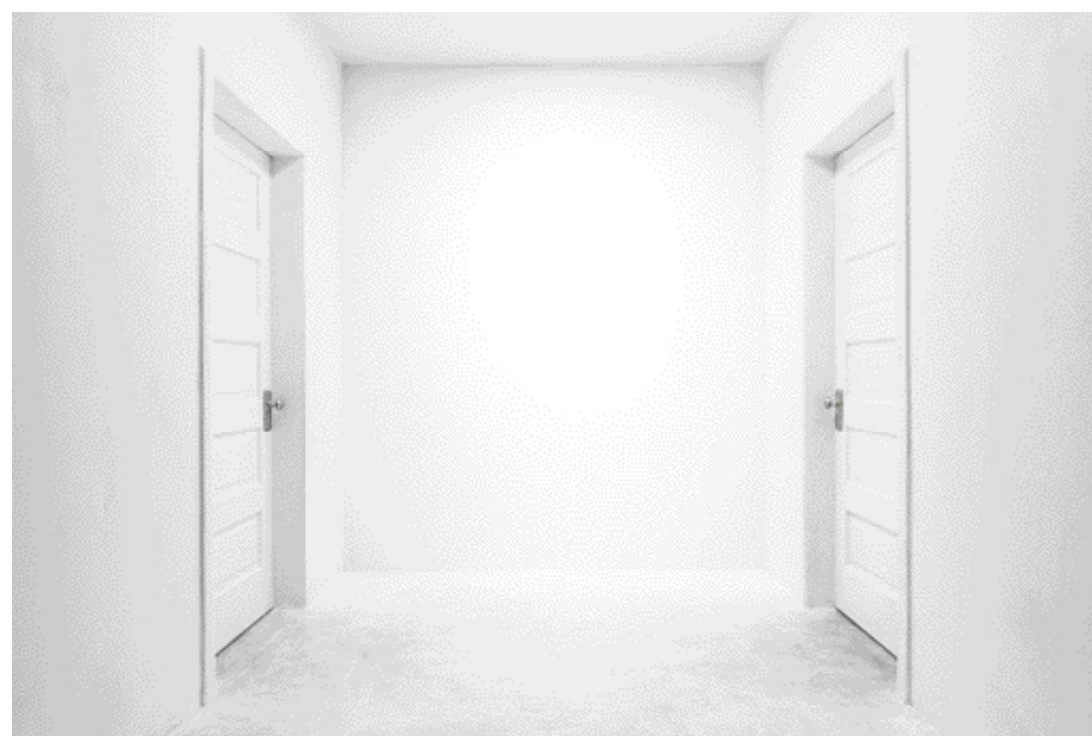


撮影：金川晋吾

かん・りょうへい
1983年愛媛県生まれ、博士(美術)。2009年に武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科を卒業後、東京藝術大学 大学院 美術研究科 修士課程に進学。2013年から2015年まで「ドイツ学術交流会(DAAD)」の奨学生としてミュンヘン国立造形美術アカデミー(Gregor Schneider クラス)に在籍。2016年東京藝術大学 大学院 美術研究科 博士後期課程を修了。主な個展に2013年「White Cube」(トーキョーワンダーサイト本郷/東京)、2014年「Room A.EG_05」(ミュンヘン国立造形美術アカデミー/ミュンヘン)など。主な受賞に、2012年「シュル美術賞 島敦彦審査員賞」、2015年「野村美術賞」、2016年「第1回枕崎国際芸術賞展 大賞」など。2016年現在「吉野石膏美術振興財団 若手美術家の在外研修に対する助成」を受けて、ミュンヘンに在住。



「White Cube -18」 2015年 73.3×110.0 cm 枕崎市文化資料センター南浜館蔵



「White Cube -12」 2015年 73.3×110.0cm 枕崎市文化資料センター南浜館蔵

ある時は、その部屋をフェルメールが使用した。フェルメールは正面の壁に大きな世界地図を張り、窓を開き、まだ見ぬ外界への冒険と挑戦を誘った。そこに現れた少女たちは、本を読みながら、またはリユートを演奏しながら、新しい時代の到来をあこがれ、夢を見た。その少し前、この部屋はルネサンスの画家たちに使われた。全開の窓からは大天使ガブリエルが現われ、部屋のマリアに受胎告知を行った。マリアは驚き、しかし宿命を受け入れた。

ゴッホがこの部屋を借りた時、室内は黄色に塗られ、粗末な机の上に尊敬する友人の数と同じだけのヒマワリの花を活け、彼らの到着を待ちわびた。マチスは安楽イスを部屋の中央に置き、壁を赤く塗り、ツタや葉の装飾をほどこした。

ルネ・マグリットは部屋の中央に山高帽をかぶった黒い服の男を立てせ、ポール・デルヴォーは裸の女たちを立てせた。ウォーホルが借りた時、彼は壁一面を牛のプリントで張りめぐらした。

そして今、新しい借り手待っていたこの部屋は、菅亮平により使われることになった。菅は壁を白く塗った。するとその部屋に去来したのは、曰く言いがたい人間存在の寂寥感であった。そして多くの偉大な画家たちも、実はそのことを表そうとしていたのかもしれない、と菅は気付くのだった。

せんじゅ・ひろし

1958年東京都生まれ。82年東京藝術大学卒業、87年同大学院後期博士課程修了。東洋人初のヴェネツィア・ビエンナーレ名誉賞受賞。「ウォーターフォール」「クリフ」などの国際的評価が認められ、2016年平成28年度外務大臣表彰を受賞。同年、薬師寺に作品が収蔵される。